

今回の個別フォローは、最初にチーム活動で初めて感じた迷いの話を聞いてもらった。陽子さんは私の不満に理解を示してくれながらも、「Eちゃんは最初の一言は言えるけど、二回、三回と同じことを言い続けられるのか」と、課題を的確に整理してくれた。

陽子さんに「本音を言っても返って来ない人を今まで沢山相手にしてきたと思うけど、どうやってメンタリティを保っているのか？」と質問した。すると、陽子さんからは「真理を伝えているだけだから」という答えが返って来た。**大事なことだから、何度も言うだけ**と。そして、相手に伝わるかどうかは、伝え方だけじゃなく、色んな条件が揃う必要があると話してくれた。相手が受け取れるキャパだったり、タイミングだったり。その時が来るまで、手を替え品を替え、伝え続ける。今までは、最初の「伝える」が最大のハードルだったから、「何度も言う」ことが、すっぽり抜け落ちていたことに気が付いた。要は、それだけ自分で言いたいこと、伝えたいことがあるかどうかということだ。私たちはすぐにスキルの話に持つて行きたがるけど、結局言いたいことがあるかどうかは、陽子さんの言う「覚悟の問題」なのだと思う。

そして、今回キーとなったのが、「人としての最後の優しさ」の話だ。陽子さんが偏屈親父がやっているといううどん屋を例に話してくれた。そのお店を10年プロジェクトのメンバーCさんには勧められるけど、Eちゃんには勧められない。うどんの味には太鼓判を押せるけど、その他の親父の不愛想さや接客の行き届かなさを、Eちゃんは含んでくれる気がしないと。たしかになんの前評判も聞かず、ひどい接客に出会ったら、私は憤るだろう。陽子さんは、「そのうどんを食べたら

優しくなれる」と言っていた。「彼は本当にうどんに出会って良かったね、人生変わったね」と。憤っていたらその心境には一生なれないのだと思った。

陽子さんからの許容度が低いというフィードバックには、心当たりしかなかった。個別フォローの最中に陽子さんから「なんでそんなにいい人だと思われたいんだろうね?」と言われて、私は人生でいい人になりたいなんて思ったことは一度もないのだけど、先日電車の中で急病人が発生した時に「迷惑だ」と感じた本音を公言できなかつたように、言動を見るといい人だと思われたい(悪く思われたくない)ように見えるのだろう。でも、今回フィードバックをもらって気付いたのは、「いい人だと思われたい」ではなく、「冷たい(きつい)人間だと思われたくない」が1番近いと思った。そして、それは自分が自分のことを「厳しい人間」だと知っているからに他ならない。それを公にしたところで、相手を委縮させるだけで、あまりメリットがないことも知っている。だからこそその言動だったのだと腹落ちした。家族からも「人に対して厳しい」と言われることがあるが、10年プロジェクトでは出すシーンが今まであまりなかったにも関わらず、なんで陽子さんはわかったのだろうと驚きも感じた。

「人に優しくした方が絶対楽だよ」

今回の個別フォローで1番ぶっ刺さった言葉だった。その理由は、今の私は自分に対しても優しくないからだ。陽子さんから「その答えが一発で出て来るとは思わなかつた」と言われて、手と手を取り合って喜びたくなるほど嬉しかつた。自己研鑽を続けていて良かったと思うのって、きっとこういう瞬間だ。以前の私だったら、陽子さんにヒントを何回か出しても

らって、ようやく辿り着いた感じだろう。でも、それだと、納得感も理解も、今には及ばないのだと思う。

陽子さんからの言葉は、私が誰かにずっと言ってほしかった言葉だったのかもしれない。自分を苦しめている、縛っているのは自分自身だというのはわかつていた。でも、それをどうやって解放したら良いのかがわからなかった。人に優しくすることと、自分に優しくすることはきっと同義なんだろう。

結局人に向けている矢印は、自分にも向いている。でも、それって誰も幸せにしていないなと思った。最近入社した営業アシスタントのパートさんに「ストイックですね」と言われた。ストイックだと言われそうなマラソンやファスティングの話はまだしていないので、完全に仕事をしている姿だけを見て、そう判断されたのだと思う。仕事で成果を出すためには、厳しくやることも必要だけど、私が自分に向いている厳しさを、相手にも感じさせているのだろう。

今まで頑なさがあることで不自由だと感じたことはあったけど、今日ほど手放したいと思ったことはなかった。優しくすることと甘やかすことの違いが難しく感じるけど、頑なさを手放すための大きなヒントをもらった。

今回も沢山の気付きありがとうございました！

(E.M 40代女性 埼玉県)